

2016/10/11

AiR ノールラン、ノルウェーレジデンス報告書

村上 郁

目次

- (1) 概要
- (2) スケジュール
- (3) 施設概要
- (4) 生活
- (5) 設備
- (6) 滞在作家
- (7) 運営者とスタッフ
- (8) Bodø の立地
- (9) 周辺環境
- (10) AIR の目的
- (11) 留意点
- (12) AIR の制作作品
- (13) 現地での成果発表
- (14) 総括

2016/10/11

(1) 概要

今回は2回目の募集。2015年に行われた第1回目の企画に関わった作家からお声がけを頂き応募した。

【企画運営者】 Kristoffer Dolmen

Nordland County Council、文化芸術課のプロジェクト・マネージャー。
Nordland 県のアートプロジェクトや美術大学への助成、国際交流や国際プロジェクトを行っている。

【主催】 Nordland County Council

【募集内容】 主に風景を主題とする平面作家の募集。〆切りは 2016 年 2 月 1 日。プロジェクト・マネージャーと 2 人のノルウェー人作家によって滞在作家が選出される。ポートフォリオ、CV、滞在希望理由と現地での予定を書き、メールで送信。

【滞在期間】 2016 年 6 月 3 日から 26 日 (23 日間)

【滞在作家】 村上郁、滝澤徹也、吉田和生

【滞在場所】 Nordland Culture Center

【提供されるもの】 東京から Bodø までの往復航空券、個室、共有キッチン・シャワー、スタジオ、食費、制作材料費 (一部)

【その他】 必要な素材は、基本的に作家が日本から手持ちで持っていく。郵送は受け付けない。

(2) スケジュール

2016年

6月3日 Bodø 空港に到着。

ディレクターと落ち合い、Nordland Culture Center へ。利用できる施設の説明を受ける。

4日 グループ・リサーチ：ロフォーテン諸島。

ディレクターの車で Henningsvar へ向かいながら町を視察。途中、フェリーでフィヨルドを渡る。

5日 グループ・リサーチ：ロフォーテン諸島。

リサイクル・ショップで食器を購入。車移動。町の AIR 施設を視察、滞在アーティストと合流、行動を共にする。ギャラリー、洞窟壁画を見学。続けて民俗博物館、美術館、水族館を見学。私設ギャラリーを見学後、元灯台のオーナー自宅を見学。地元の美術関係者のお宅で会食。ホテルに戻り、名物の干し鱈を食べる。

6日 グループ・リサーチ：ロフォーテン諸島。

車移動。ダン・グラハムの野外作品を見学。アラン・ガード（農園）を視察、チーズの試食、買い物。ヴァイキング博物館を見学。遠藤敏克さんの野外作品を見学。フェリーで Bodø に戻る。

7日 スタジオが提供される。スタジオ掃除。

3つに分かれた場所のうち、窓側に決める。

8日 ディレクターが車で街案内。制作材料の買い出し。

DIY ショップやチャリティショップの場所を教えてもらう。

9日 食器を用いた作品の試作。

10日 リサーチ：スタジオから港まで。白夜。

ディレクターのオフィスにて、今後のスケジュールについての打ち合わせ。夜、山頂でシリア人の親子と会い、コーヒーとポップコーンをいただく。

11日 リサーチ：町の南東。

12日 3階の部屋へ移動する。リサーチ：施設の裏庭、南の海岸。

13日 リサーチ：港周辺。材料購入。

リサイクル・ショップで食器購入。雑貨屋で凧を購入。凧あげ実験。

2016/10/11

- 14日 食器の作品試作、ドローイング。
宿泊所で一緒だった大学教授に、ノルウェー語授業。
- 15日 リサーチ：山、パラグライダー、モーターボート試乗。
凧あげ実験。
- 16日 早朝登山。凧を用いた作品の撮影。
- 17日 夕方登山。凧を用いた作品の撮影。
- 18日 スタジオの撤収。室内で制作。町のギャラリー視察。
- 19日 施設内で皇族のパーティが行われたため、室内で制作。
リサーチ：渦潮。
- 20日 室内で制作。裏庭で撮影。アーティスト・トーク準備。
- 21日 スタジオに作品移動、セッティング。
- 22日 制作。夜に船で島へ。ノルウェー式の夏の遊びを体験。
- 23日 制作。文字作品の撮影のため登山。
- 24日 アーティスト・トークの打ち合わせ。
文字の作品制作。設置。
- 25日 アーティスト・トーク、オープン・スタジオ。
撤収、徹夜で帰り支度。
- 26日 Bodø を出発

2016/10/11

(3) 施設概要

- ・ 宿泊棟



作家以外の人でも利用できる宿泊施設だった。滞在中、若いグループ、大学教授などが滞在していた。

- ・ スタジオ棟



元牛小屋。別部屋に、長期で利用している作家がいた。

2016/10/11

- ワークショップ (今回は使用できず)



木材工房



ガラス工房

2016/10/11

- ・ 会議室



アーティスト・トークはここで行った。

- ・ 裏庭



ムーミン谷のような橋や建物などがあつた。時折、お祭りなどが行われる。

2016/10/11

- 馬小屋



馬と身近に触れあえる場所が敷地内にある。昼は外に、夜はスタジオの隣に
いるので、スタジオで深夜作業をしていると、隣からため息(?)が聞こえ
てきたりする。

- プレイパーク



アスレチック施設。一般に開放されていて、週末には親子連れで賑わう。

2016/10/11

(4) 生活

・ 部屋



2階の2人部屋。この部屋には洗面台がついていた。



3階の1人部屋。この部屋には洗面台はなかったが、広さはほぼ同じ。

2016/10/11

- キッチン



2階の共有キッチン。3階にもキッチンはあるが、2階の方がきれい。

- 洗濯



洗濯機、アイロン、アイロン台あり。

- シャワー設備

2階に男女別シャワー・トイレルーム。3階にシャワー室2つあり。

2016/10/11

- ・ カフェ

敷地内にフード提供しているカフェ有り。利用する機会がなかった。

- ・ 移動



ペダル逆回転ブレーキの自転車が借りられた。慣れるまでは乗りにくい。

- ・ 買い物



自転車で3分のところにあるスーパー。食材は基本的にここで購入する。

2016/10/11

(5) 設備

- ・ スタジオ



スタジオ内に特別な設備はないが、ライティングレールが引いてあるので、内部は明るい。机と椅子、プリンス（作品台）がある。

(6) 滞在作家

日本人作家 3 人のみ。ノルウェー人や海外作家は滞在していなかった。ディレクターとの会話は英語、それ以外はほぼ日本語だった。

(7) 運営者とスタッフ

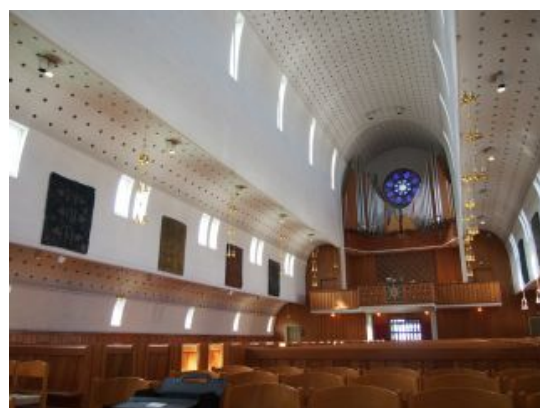
ディレクター1人のみ。

(8) Bodø の立地

ノルウェー・ヌールラン県の県都。細長いノルウェーの真ん中から少々北寄り、北極圏内に位置している。港町。街は自転車で 1 時間くらいで回れる。ショッピングセンターも充実していて、たいいていのものは手に入る。

2016/10/11

(9) 周边环境



(10) AIRの目的

(申請資料より抜粋)

置き換えや交換により、無関心から親密さ、または共感や誤解を含む心理的変化がいかにかき起るかに興味があり、その中でも、風景にまつわる記憶、場所に付随するイメージの置き換えや交換を通して、見知らぬ場へ記憶を植え付ける作業を行ってきた。…(略)…そのような土地に、自分がどう入り込み親密さを抱くのか。…(略)…土地と私との関係から生ずる心理変化も追い、作品制作に反映させたい。

滞在中に行う可能性のあるアクティビティ

01. 風景を撮影しに行く
02. 自然光を用いる(時間、方角、色など)
03. 生活光を用いる
04. プロジェクターを使う(人工光、透過)
05. 光源と透過する媒体との位置関係を探る。
06. 記憶と光にまつわる話を集める
07. 風景(土地)と記憶にまつわる話を集める
08. 土地に対する、現地の人(子供を想定)の愛着に関する試作(インタビューとドローイング、コラージュ)
09. 現地の風景を、その場の太陽光を使って感光する。
10. 過去の光を現在に持ち込む。
11. 空の色を比べる(時間、位置)
12. 観光絵はがきの収集

(11) 留意点

気温が日本とはずいぶん違う。Bodø は北極圏内にあるので、6月であっても日本の夏とは比べものにならないほど寒い。特に今回は例年よりも寒かったようで、薄曇りの天気の日が多く、より気温が低かったようだ。

服装にも注意したい。ウールの長袖にシャツ、セーターを重ね、外出時にはウィンドブレーカーと手袋を着用した。自転車に乗る時は、ニットの帽子も必要だと感じた。晴天の日は、逆にかなり暖かく、外出時出会ってもセーターはいらない。日本の春の陽気。昼夜の寒暖差が激しく、空気がかなり乾燥している。

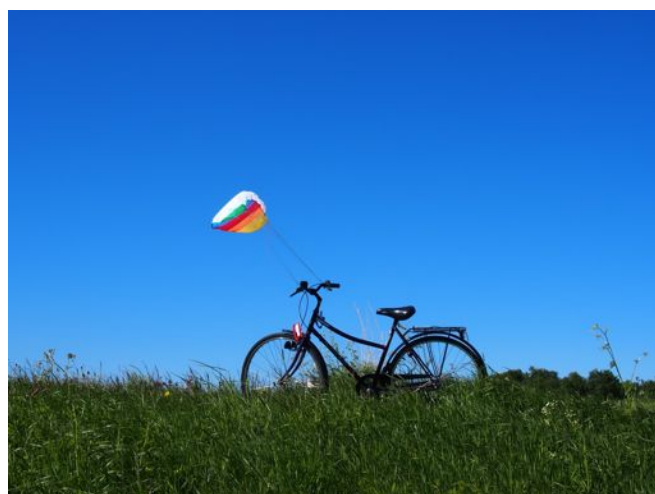
また、6月は白夜の最中なので、夜でも昼間と変わらずに明るい。睡眠時にはアイマスクが必須。

言語について。ノルウェー人は英語が堪能なので、会話は英語となる。非常に聴き取りやすく丁寧に話してくれるのだが、ときどき約束したことが反故にされたり、話が変わっていたりすることがあり、困った。

ディレクターとのやりとりは基本、Facebook のメッセージだった。出かけている間だけレンタルした携帯電話でやりとりをした。施設内の Wi-Fi はストレスなく使えた。

2016/10/11

(1 2) AIR の制作作品



2016/10/11

(13) 現地での成果発表

- ・アーティスト・トークの様子



- ・オープン・スタジオの様子



(14) 総括

レジデンス全般に関して。約3週間という期間のレジデンスに対して、どのような制作態度で臨むか。今回はそのあたりの意識が少々足りなかったかも知れない。

今回のレジデンスはリサーチベースだったが、それにしても期間内にアイデアのコンセプトをまとめ、なにかしらの形に落とし込むのはなかなか慌ただしい。なにかしらの成果物が出来たとしても、その形が納得のいくものであったか、やや疑問が残るところであり、やりきれなかった感が残る。今から思えば、シンガポール滞在時に行ったように、事前にリサーチの目星をつけておくのは効果的だった。

このように、制作ベースのレジデンスではもちろんのことになると思うが、短期のレジデンスには、日本でのリサーチは必要と感じた。特に制作手法がコンセプトによって変わりやすい作家にとっては、滞在場所と滞在期間の検討には慎重になるべきかもしれない。加えて、レジデンス参加の必然性、つまり自分にとって、場所を移動して制作をする事に対してもっと意識的になれば、滞在中に起こる疑問や不安に対処できるようになるのではないと思われる。逆に考えるなら、あらゆる場所に対応可能な制作手法があり、場所を移動する事に必然性があれば、短期間のレジデンスにも対応できる制作が可能になる(かもしれない)。ただ、これは効率的に制作を行う事に関しての話でしかないが。

その他、アーティスト・トークの準備に1日あてたが、写真選定とトーク内容をまとめきれず、2日あてた方がよかったこと。また、これはスケジュールの問題であるが、成果発表の次の日の朝には飛行場を出発しなければならず、パッキングに苦戦し、結局ほとんど徹夜作業になった。そして旅行用の荷物計りは持参した方がよかった。

加えて荷物に関して、機内持ち込みを2つ預けられたのに対して、スーツケース1つに手荷物1つに絞ってしまったところ、帰りにパッキングしきれずに、移動が大変なことになった。郵送できればよかったのだが、行きのスーツケースやバッグには、帰りの分の余裕を持たせたようがよかったようだ。

反省点が多いレジデンスではあったが、移動と制作の意義に向き合ういい機会となった。また、レジデンスのコツのようなものも掴み始めていると思う。今回行ったリサーチと制作に関しても、来年に予定されている展示に向けて、発展させていければと思っている。